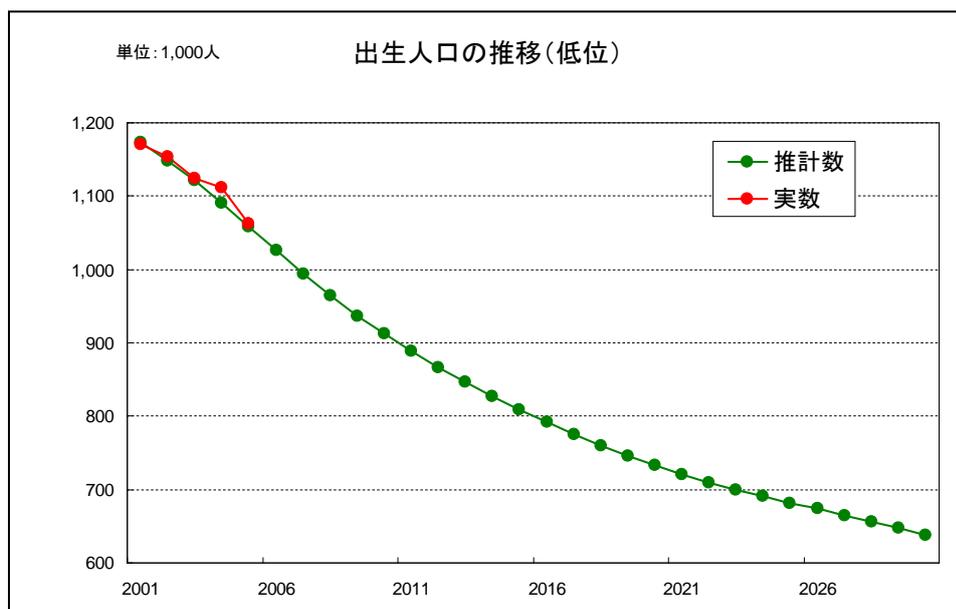
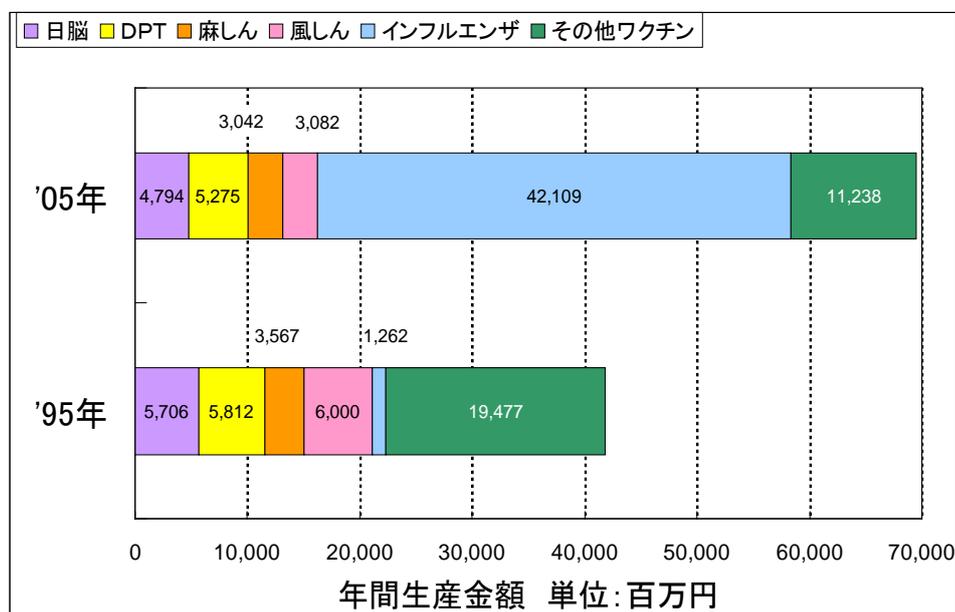


図8 日本の出生人口の推移



- (4) 国内のワクチン製造企業の収益のうち小児領域が1 / 3 を占める構成であるが、インフルエンザワクチンがその1 / 3 ~ 1 / 2 を占めるようになり、その比率が年々増加している。(平成 15 年販売実績)。

図9 国内ワクチンの年間生産額の内訳



(細菌製剤協会調べ)

- (5) 企業においても現在の市場構造として、インフルエンザワクチンが約30%、小児領域が約35%、旅行者用ワクチンを含む成人市場が約20%と分析しているところであるが、国際的な市場構造の予測において、新開発品目の導入とともに成人、高齢者市場の発展を予想している。